



私は旧制中学校の寄宿舎、旧制高等学校の寮、旧制大学の学生寮と、寮生活を送った経験から、寮生活で学べるものが多く、それが社会に出て役立つことを信じています。

佐々木館長が就任されて、会館の運営全般に非常な意欲を持って当ろうとされる気魄が窺われ、うれしく思っております。このたび会館の情報発信の一環として会館だよりが発行されるとお聞きし、大いに期待しております。

公益財団法人岩手県学生援護会 代表理事 鈴木勲



現在の学生寮は、私の経験した寮生活とは変つていると思いますが、変わらないものもあると思います。それは共同生活における自由と規律の問題です。個人の生活の自由と集団の生活における規律の問題は、どの社会でも共通の問題であり、それをクリアすることが社会人として生きる資格につながるものではないかと思えます。岩手県学生会館は、県出身の学生の修学を援助するため関係者の熱い思いを基に造られたものです。その思いに応え、それを後輩達に引き継いでいく責任が在寮生の皆さんにはあります。新しい会報が、自由と規律の中での楽しい寮生活の情報を発信することができれば、



鈴木勲 代表理事
岩手県出身 東京大学法学部 卒業

昭和28年	文部省入省
昭和57年	文部省初等中等教育局長
昭和58年	文化庁長官
昭和60年	国立教育研究所所長
昭和61年	日本弘道会会長
平成元年	日本育英会理事長
その他要職を歴任	

岩手県学生援護会関係

昭和60年	理事
平成12年	常務理事
平成22年1月	副代表理事
平成22年3月	代表理事就任

郷里の後輩たちを引きつけるメッセージにもなるものと信じます。私も会館だよりによつて寮生の皆さんの生活や考えや趣味やいろいろのことが分つたら楽しいと思つていきます。佐々木館長の発案にご協力頂き、ぜひ投稿されて、会館だよりの第一号が寮生同志や郷里のご両親や関係者の間で楽しく読まれることを願っています。

岩手県学生会館(岩手学生寮)会報 会館だより

第1号
—創刊号—

編集責任
会館事務局
学生自治会

学生の近況、私は今…



東京工業大学一年 永島 涼太
(盛岡三高卒)

最近ようやく東京での暮らしにも慣れてきました。正直に言うと、寮について良いイメージを持っていませんでした。しかし、実際に入寮して、そのイメージは一変しました。充実した設備は事前の資料で知っていましたが、寮生活を始めると、周囲へのアクセスの良さや寮の人の優しさが身にしみました。さらに、暮らしていくうちに同期の友人も増え、ますます寮生活が好きになりました。

大学はまだ慣れないですが、友人たちと協力して勉強と部活動の両立を図りつつ、大学生活を楽しんでいます。

今でもまだ寮も大学も手探り状態ですが、いずれは自主的に行動して、将来、自信を持って社会に出ていけるように自らを高めていきたいです。その時が来るまでこの寮にお世話になります。よろしくお願いします。



立教大学一年 小原 菜穂
(盛岡一高卒)

岩手県から東京に出てきて、高校までとは

全く異なる生活をし、新鮮な事ばかりの毎日です。興味深い講義を受けたり、寮の先輩が立ち上げたボランティア団体の活動に参加したり、サークル活動をしたり、美術館・博物館に出かけたりして、自分の視野が広がっていくのを日々実感しています。

また、寮生活では高校の時同じクラスだった友達や、新しくできた友達と楽しい生活を送っています。同じ岩手県出身だからこそ話がはずみます。一方で、私は英米文学を学んでいるのですが、異なる勉強をしている友達には刺激を受けます。恵まれた寮生活を送っていると感じています。

寮や大学で様々な人々と交流をして、今の時期はやりたいことができるチャンスだと思いました。たくさんを経験し、充実した大学四年間にしたいと思っています。そして将来は学生生活での経験を生かして、故郷岩手県のために働ければと思っています。



日本外国語専門学校 高橋 福美
(盛岡商高卒)

私がこの岩手県学生会館に入寮し、3ヶ月が過ぎようとしている。寮生活にも慣れ、楽しい毎日を送る中で思ったことは、同じ県出身の人がいる安心感だ。多くの人と学校を通して触れ

合い、地元が恋しくなることもある。しかし、この寮には同年代のそして岩手県出身の人達ばかりなので、地元の話をして淋しさを紛わせるところが良いところだ。そのおかげで学校生活も楽しく過ごせている。そしてそのなかで、今熱中していることは都内観光だ。今までテレビを通して見ていた場所や、その土地の文化に触れることで、新たに知ることが多く、とても楽しい。まだまだ知らない場所も多いので時間に余裕がある時は今後も観光したいと思う。

私は将来、ホテリエになりたいと思いついた。その夢に一步一步近づけるよう日々勉強に励んでいる。来年は就職活動で更に忙しくなると思うが、将来を見据えて今から頑張りたい。



東京理科大学二年 吉田 辰哉
(花巻北高卒)

私は今、理学部物理学科に所属していて、毎日物理学の勉強に明け暮れています。理学部はなかなか忙しいところで、毎週レポートやテストが課せられますし、実験の準備や実施結果を報告するためのプレゼンテーションも行わなければなりません。物理学の勉強だけでも忙しいのですが、私は大学で天文部に所属していて、天体観測にも力を入れています。晴れていれば大学で太陽や惑星の観測をし、時々

国立天文台に行つて観測することもあります。

このように、毎日物理学と天体観測に熱中して忙しい生活を送っているのですが、それを苦に感じることはありません。それは、一つは自分が好きな事を行っているからということもあります。何よりも、寮で生活することで、生活の基本的要件である衣食住が満たされ、生活のリズムが確立されていることが大きいと思います。寮のおかげで自分の生活の基盤がつかられ、忙しく充実した生活を送ることができ、非常に感謝しています。

「会館だより」に寄せる思い

会館だよりを発刊するにあたって名称と内容に関してのご意見を求めましたが、残念ながら応募者は4名でした。そこで、創刊号については名称を付けずに、もう少し応募を待ちたいと思います。是非、関心を持ち、積極的に参加していただきたいと思います。

そこで今回は応募していただいた方々のご意見を紹介したいと思います。参考にさせていただき、もっと多くの方のご意見が寄せられることを願っています。

《Aさん》

そもそも、学生会館ではあまりイベントが少ないので、「学生会館」として提供できる情報が少ない。なので、住んでいる学生が通っている大

学及び専門学校で何をしているか、もしくは最近の出来事に関してどのような意見を持っているかのようなエッセイ等を書けば良いと思われる。

《Bさん》

県内の高校生も読んでくださるなら・・・。寮の中の様子や生活の様子を紹介したり、夏休みにオーブンキャンプ等への参加で東京するのに合わせて、寮も見学会を行うなど宣伝も大切だと思います。

なお、現在のところ名称については次の4点が寄せられています。ご紹介します。もう少し出揃ったところで決めたいと思います。

1 「いわての」

○岩手のく〜に続く情報を発信することから。

2 「イーハトーブ未来」

○岩手県学生会館なので「岩手」という要素と生活している学生たちが東京にいても故郷岩手のことを思い続けていること、また、未来に向かって日々邁進しているというイメージから。

3 「パレット」

○真っ白なパレット(会館だより)に絵の具(寮生や他のいろいろな情報)をのせてにぎやかにしていきたいから。

4 「翌檜」(あすなる)

○翌檜の花言葉は「不変の友情、不死不滅」日本の固有種の木。また、この木の名前の由来

が「あすはヒノキになる」と、願っているということから向上心を表す時もある。日本の木材としても活躍している。

以上です。たった4点ですが、今後さらに会館だよりを充実発展させるための貴重なご応募だと思えますし、皆さんの期待が十分に伝わってくる内容だと思います。

これからもわかるとおり、会館だよりは会館からの指示、連絡といった一方通行のものではなく、学生の皆さん自ら参加し、企画運営も担当していただくことが大事ではないかと思えます。

次号予告

日時は未定ながら編集は吉田楓さんを中心にお願いすることとしました。皆さんのご協力をよろしくお願いいたします

会館だより名称再募集

○締め切り8月末日
○用紙のない方は会議室にありますのでご利用ください。
大勢の皆さんのご応募をお待ちいたしております。

予 告

政策研究大学院大学客員教授小松正之先生(当法人理事)の講演会を9月下旬、当会館で開催します。ご期待ください。

「2025年の日本と世界」

—どんな職業と人物が求められるか—

略 歴

陸前高田市出身
米国エール大学経営大学院卒業
(経営学修士、農学博士)
農林水産省入省後、在イタリア日本大使館一等書記官、内閣府規制改革会議専門委員等歴任し、現職。

平成25年度学生会館概要

平成25年度の岩手県学生会館の運営が始まりました。今年度の会館の概要を紹介します。

■寮生 総数68名／男子33名／女子35名

≪1年次27名／2年次13名／3年次16名／4年次12名≫

■職員



館長
佐々木 裕二
(平成25年4月就任)



書記
樺沢 理恵子
(平成15年6月就任)



寮母
佐々木 由美
(平成25年4月就任)

■委託会社

建物管理関係：株式会社ビルネット

食堂関係：グリーンホスピタリティフードサービス株式会社

公益財団法人岩手県学生援護会役員

平成25年5月17日現在

《理事》

代表理事 鈴木 勲（日本弘道会会長・元文化庁長官）
副代表理事 巖岩 壮吉（在京岩手学生会会長）※ 6/17 逝去
業務執行理事 村松 武（テイ・エム・クエスト代表）
太田 知行（元三興化学取締役・学生会副会長） 伊藤 泰三郎（二輪旅代表）
瀬川 爾朗（県人連合会会長・東大名誉教授） 小松 正之（政策研究大学院大学客員教授）
佐々木 裕二（学生会館館長）

《評議員》

坂本 巳由（たちばな福祉会理事）	千葉 建夫（社会保険労務士）
川井 博之（岩手日報東京支社長）	佐藤 克也（岩手銀行取締役）
齋藤 新一（県産業人会会長・大井電気社長）	川村 瑞幸（元 JFE スチール課長）
柴田 彩千子（帝京大学准教授）	小野寺 麻利子（ジェイアール東日本企画部長代理）

《監事》

砂金 良明（キャストプラス常務取締役）	木村 卓也（県東京事務所長）
---------------------	----------------

《相談役》

谷藤 裕明（盛岡市長）	伊達 勝身（岩泉町長）※ 6/30 ご退任
小田島智弥（県総務部長）	菅野 洋樹（県教育長）

《顧問》

志賀 かう子（エッセイスト）	河野 忠功（元日新製糖専務取締役）
----------------	-------------------

25年度会館の様子

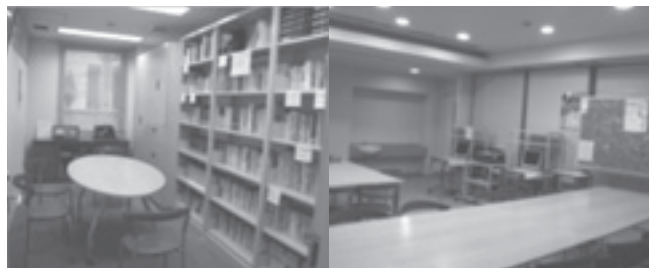
▼在京岩手学生会総会並びに新入寮生歓迎会

4月6日(土)、あいにくの雨が降りしきる中でしたが、太田理事(在京岩手県学生会副会長)、村松業務執行理事、伊藤理事、瀬川評議員(現理事)、小松評議員(現理事)、木村県東京事務所長(現監事)、県職員2名(本会のご指導担当)、及び会館職員、そして在寮生が参加して新入生の歓迎会が会館食堂で開催されました。当日は前段で在京岩手学生会総会が行われ、終了後歓迎会となりました。グリーンハウスさんが夕食をパーティ用に準備してくださり、新入生はジュース、成人はビールで乾杯し、和やかな交流が行われました。役員、評議員の方々からは自己紹介のほか、学生時代を振り返っての学生へのアドバイスなどもお話しいただきましたし、学生の席を回って談笑される方もおられました。現在のところ交流の機会はこれ一度だけですが、是非、増やしていきたいと思っています。

▼会議室、図書室機能を充実

食堂と隣り合わせにあった会議室(学習室)をより目的に合った使用ができるようにパーティションで区切り、さらにはパソコンを図書室から移動し、学習に集中できるように工夫いたしました。

また、図書室にテーブル、椅子を設置し、読書が可能になるようにしました。また、会館に談話室がほしいとの声も考慮し、図書室と兼用ながら談話室としても使用できることといたしました。ご利用ください。



▼シャワーの使用がより自由に

寮生の要望が強かった日曜日のシャワー使用が始まりました。今まで近くの銭湯に行かざるを得なかったものが解消になりました。経済的にも少しは楽になったのではないかと思います。と、同時に朝、夕のシャワーの使用もできるようになり、早朝トレーニング、部活動帰りの人達に喜ばれています。



▼植栽の剪定も済みました

奥には山ももの実がなっています



食堂から見た中庭です



会館からの連絡

○新ボイラー設置に伴う給湯（風呂等）制限について

老朽化に依るボイラーの交換のため8月13日から4日間工事が入ります。それに伴って8月13日午前中の給湯制限、13日～15日までの給湯（入浴）制限がかかります。トイレ等の使用制限は避けることができそうですが、お風呂は使えなくなります。夏休みの計画を立てる際はこの期間を考慮に入れておいてください。

○7月12日（金）定期清掃

食堂、廊下、風呂などの共用部の清掃を行います。日中、通行に若干制限がかかるかもしれません。

○8月13日～22日は夏季休業です。

この期間の管理業務、食事、入浴等はお休みになります。ただし、入浴・シャワーについてはご利用いただけるようスケジュールを組みます。シャワーは毎日、入浴は3日に1度と考えています。

なお、外泊届等、諸届の提出もお願いいたします。

○《もの申す箱》の設置について

気が付いていることと思いますが、事務室前に「もの申す箱」を設置しております。気がついたこと、ご意見等なんでも結構ですの

でお書きください。誠心誠意対応したいと考えていますので、よろしくお願いいたします。

編集後記

なんとか会館だより1号が発行できました。ただ、皆さんに訴えた名称募集は応募がわずか四人で、もう少し時間を置こうということになりました。再度名称を募集しますので奮ってご応募お願いいたします。

さて、内容的にはこれからさらに充実を図っていくかと思いますが、皆さんの協力が是非とも必要です。このたよりの発刊目的は共に生活の場を共有する人たちのさらに深い絆を築き上げようとするものです。隣に座っている人がどういう人なのか分からない、とか、私はこういうことに関心があるのに他の人はどうなのだろうか、とか、思っている人もいるのではないのでしょうか。つまり、よくコミュニケーションが取れていない状況もあるのではないのでしょうか。コミュニケーションとはお互いの信頼に基づいて成り立つものです。お互いをよく知ること、コミュニケーションを深めていってほしいものです。他者を知ること、自分を知らずにはなれません。会館において共同の生活を送るということはその機会を大いに活用できる利点があると思います。その一助になればとの思いからの会館だよりの

発行です。皆さんでは是非とも大いに語り合いたまわしましょう。

なお、数十年前に会館（学生寮）ができた頃は文芸誌の発行もあったようです。学生の皆さんが持ち回りで自ら執筆していたようです。向学心に燃えながら、自己啓発をしていたものと思われま。是非、皆さんも数十年前の学生に負けないで、自己啓発を図りながら、自分の将来に向けて精いっぱい自分を磨いていってください。（Y）

訃報

本公益法人副代表理事並びに在京岩手学生会会長 巖岩壮吉様におかれましては平成25年6月17日、ご逝去されました。85歳でした。これまでのご尽力に対し、感謝申し上げますとともに、謹んでご冥福をお祈りいたします。

平成二五年七月十日発行

編集

公益財団法人岩手県学生援護会

岩手県学生会館事務局

同学生自治会

発行元

公益財団法人岩手県学生援護会

岩手県学生会館

東京都豊島区要町二丁目5番5号

tel 03(3972)4783

fax 03(6676)4471